中国新聞 2021年1月5日 火曜日　セスポーツ セレクト 6ページ

はばたけ！JTサンダーズ広島

竹田 英司

選手と苦楽分かち合い

Vリーグ4連敗、天皇杯（全日本選手権大会）準決勝敗退で昨年の公式戦を終え、私は何とかチームの雰囲気を変えたいと思った。選手に「頑張れ」と言う気は全くない。けが人が続出するほど頑張っている選手を間近で見てきたからだ。今後は見守るだけでなく一緒に汗をかいて苦しもう、と年末年始も選手とトレーニングをして過ごした。

オンラインファンミーティングに臨む井上航㊧と武智洸史の両選手

山本将平主将は悪戦苦闘する私に「竹田さんも試合に出られるよ」と手をたたいて激励してくれた。金子聖輝選手には指導者としての適性を感じ、「将来は監督になるか」と思わず尋ねた。「筋肉痛でつらい」とこぼした私に対し、ロジャーズ海選手は困難を乗り越えるこつを教えてくれた。「筋肉痛は『筋肉が喜んでいる』、つらいは『楽しい』と言い換えてください」

普段は頭痛の種の井上航選手でさえ「見た目はさて置き、体は若いですね」と独特の言い回しで私を鼓舞した。そんな航選手のこぼれ話で今年最初のコラムを締めたい。

昨秋、ファンと選手がリモートで交流する会が開かれた前日、航選手宛てに速達が届いたので「きっと明日の当選者からだから、今すぐ私の目の前で読め。明日はきちんとお礼を言うのだぞ」とくぎを刺した。すると当日、航選手は画面越しに丁重なお礼を言った。この素直さこそ航選手がチームやファンの皆さまに愛され、バレー選手として生き残っている理由なのだろうな…と感じた。

本年も選手とともに苦しさも楽しさも分かち合い、そして最後に笑っていたい。

（JT広島マネジャー）